

ZANDEN Model 120 の活用(23)  
—Model 120 設定条件の試聴(23)—

1. 始めに

前報(22)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、あまり聴く機会のない作曲家の作品の盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記のあまり聴く機会のない作曲家の作品の盤を選んで聴いています。

**CAMERATA CMT-1052**

ミカエル・ハイドン 三つの低弦のための音楽  
ハンブルグフィルハーモニー・オケストラ

**ERATO 45-E8**

ジオバーニ・ヴィオ 二つのフルートとオーケストラのための協奏曲  
ジャン・ピエール・ランパル  
ランソム・ウイリソン  
クラウディオ・シモーネ指揮イソリスト・ヴェネチ

**BASF(テイチクレコード) ULX-3069-**

マックス・レーガー 弦楽 3 重奏曲イ短調 弦楽 3 重奏曲ニ短調  
ニュー・弦楽三重奏団

SUPURAPH (日本コロムビア) OS-7043-

S J.V.シュタミツ 管弦楽作品集

イジー・クレイチャー指揮プラハ室内管弦楽団

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

CAMERATA CMT-1052 の三つの低弦のための音楽は、RIAA の正相からスタートして、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの音が散漫なので逆相にし、TELDEC、EMI と聴いて行きましたが、TELDEC は強調感があり、EMI は自然な感じがします。第 4 時定数は、High から Mid にしますと低弦がよく響くようになりました。

ERATO 45-E8 の二つのフルートとオーケストラのための協奏曲は、45 回転で再生し、RIAA の正相からスタートして、アンサンブルが散漫ですので逆相にしました。これで明るい音色が活きてきましたが、フルートの高音が勝ちすぎますので、第 4 時定数は、High から Mid にしますと、フルートとアンサンブルとの調和がとれました。

BASF(テイクレコード) ULX-3069 の弦楽 3 重奏曲イ短調とニ短調は、RIAA の正相からスタートして、弦楽 3 重奏の音が散漫なので逆相にし、TELDEC、EMI と聴いて行きましたが、TELDEC は強調感があり、EMI は自然な感じがします。第 4 時定数は、High のままで良さそうです。

SUPURAPHON (日本コロムビア) OS-7043 のシュタミツの管弦楽作品集は、RIAA の正相からスタートして、アンサンブルの音が散漫なので逆相にし、TELDEC、EMI と聴いて行きましたが、TELDEC は少し強調感があり、EMI が自然な感じがします。第 4 時定数は、High から Mid にしますと、柔らかめの音になりました。なお、ZANDEN のリストでは、カーブは TELDE になっていました。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、アンサンブルの各パートの音の焦点があってきます。

### 4. まとめ

今回試聴した曲は、いずれもあまり聴きなれない曲ばかりでしたが、条件を選択していくと、地味な曲は地味なりに、明るい曲は明るいなりに、それぞれの個性が楽しめるようになりました。

以上